

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102741
法人名	社会福祉法人守里会
事業所名	グループホーム邑
所在地	香川県高松市前田西町1080-18 (電話)087-847-1150

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年8月7日	評価決定日	平成20年10月2日

【情報提供票より】(20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年1月15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	15人 常勤 15人, 非常勤 0人, 常勤換算 13.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 3階建ての2階~3階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	8,000円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.7歳	最低	63歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香川県済生会病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から少し入ったゆったりした田園地帯にある。一戸建ての住宅が点在している。事業所のベランダからは利用者の行きつけの家も見渡せる。隣接地に嘱託医院があり、利用者の家族、職員を安心させている。理念の通り、利用者の生活のペースに寄り添った支援をしている。家事のうち買い物、調理、洗濯の補助など利用者と共にしている。地域における認知症の啓発のための催しも計画されている。地域における認知症の専門機関の役割を果たそうと試みている。
新規採用職員のための現場研修、資格取得希望者のための研修プログラムなど、職員の資質向上を図っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	勤務につく職員すべてが目を通す申し送りノートの表紙に理念が記され、浸透する方法をとっている。職員の支援の様子からも浸透されている状況がみられた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各職員が部分的にコメントを記入する段階で参加し、管理者が整理、完成させる取り組み方法をとった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	外部評価について報告し、地域の参加者より助言や協働活動への積極的提案を得ている。防災訓練、行事の案内をして参加を得ている。趣味の集いへの呼びかけもしている。運営推進会議の新たなメンバーも加わり、会議の意味の理解が深まってきている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、定期的に家族に状況を伝えている。小さな変化はその都度連絡をし、家族の不安が募らないようにしている。特に訪問された家族には努めて言葉をかけ、気持ちに耳を傾けている。家族の意見、希望をより能動的に汲み取るために、介護計画作成のためのカンファレンスに参加を呼びかけることを考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域から誘われる行事には参加し、また、隣近所の一員として近隣の人達との交流がある。事業所の行事を案内し、参加がある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で地域の人を支えるケアのためには認知症についての理解を広めることが大事である。共に支えあって理念を活かし、つくりあげるためにも欠かせないものと考えようになった。	○	地域と事業所で認知症の理解とケアについて共通の認識をもつために、公民館を窓口として認知症の啓発を計画中である。地域の人達への具体的な効果が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が毎日出勤時に必ず目を通し、サインで確認する申し送りノートの表紙に理念が手書きで大きく書かれており、常に目にするようにしている。申し送りノートの記録により支援を検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長などを中心として、開催される地域の行事の情報が得られ参加している。近くの美容院、犬を飼っている家への訪問など快く迎え入れてくれ交流がある。利用者が近所で見守られている。訪問当日も見事な採りたての茄子のプレゼントがあった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を運営推進会議で報告し、地域からの協力を得た防災訓練を実施した。自己評価作成過程では、各自が選択した項目に意見を記入している。改善に向かって全員で協議するまでには至っていない。	○	外部評価の結果を定例勉強会のテーマに予定している。自己評価作成において、全職員が協議の機会にすることにより各自の考え方が共有でき、より活用できるだろう。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での周知により、防災訓練に地域の方の参加を得た。認知症の研修会開催を案内し、理解を深めていただくために呼びかけた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議、行事に案内しているが参加は少ない。事業所からの市への訪問、提案、情報提供までの積極的な連携までには至っていない。	○	法人における研修システム、地域への認知症啓発の計画など、情報を提供する機会を通じてよりよい協働の効果があるだろう。また、他の施設への質の向上への一役が行政を通して望める。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、金銭管理、職員の異動も含めて利用者の状況を文書で連絡している。ごく些細な出来事でも電話やメールでその都度連絡している。連絡を歓迎しない家族もあるが、家族からの連絡が増えた方もある。 金銭管理については、報告はしているが、確認をとる手順はしていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口の手順を明示している。苦情ノートの作成もしている。訪れた家族には職員が必ず気持ちを問いかけるようにして意見は記録し、話し合っている。家族会は組織されていないが、運営推進会議には家族代表者が出席している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員全員で利用者全員を支援する方針をとっており、異動してきた職員と馴染めるように他の職員全員で補っている。家族にはダメージを少なくするように異動について連絡している。特定の職員がダメージを少なくするように異動について連絡している。特定の職員が特定の利用者の対応、いわゆる担当制方針でないので、馴染みの薄い家族にとっては、職員の顔と名前を覚えにくい面もある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	申請による外部研修にも積極的参加を支援している。伝達研修もミーティングの機会にし共有している。資格取得希望者に勉強会を設け、積極的な支援をしている。法人に独立した研修センターをもち、独自の研修をしている。新規採用予定者には、実務研修を行い、レポート提出を義務づけている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業所を利用者と共に訪問しあって交流をはかっており、今後も継続していきたい。グループホーム協議会に参加し、意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にあまり関係を築く期間を持てなかったケースもあり、相談員、ケアマネジャーなどの要望によって入居が始まることもある。利用者は職員と入居までに顔馴染みにはなれていないが、入居後、家族と相談しながら馴染めるように努力している。また、利用者同士の関係を大切にしていくことで、安心できる雰囲気を早期から築けるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	玄関前にあるお花の水やりを利用者と共にしている。また、昼食の料理、盛り付けなどに利用者主体で支え過ごしている様子がみられた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での利用者の何気なく発する言葉を利用者の意向、希望の表出として大事にしている。	○	スタッフ間では、利用者の言動から意向を把握し、支援している。自己満足に陥らないために汲み取った言動から理解したことを文書化し、職員全員で共有化していこうとする姿勢である。深い検討となる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族との日常生活を共にするなかで介護計画に活かすように全員で心がけている。介護計画作成、見直しの時点で改めて意志表明が活かされているとはとりにくい。家族へは介護計画案の完成時点での説明が多く、アセスメント時点であらためての意志表明の機会を設けていない。	○	介護計画の作成、見直し時点における介護計画など作成以前での家族の意見を聴く機会を設けることを試みる。また、提案されているカンファレンスに家族の参加を呼びかけると、家族が意向を積極的に話せることにもなる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時最初は一か月の介護計画で状況を確認して、その後定期的に手順に従って見直されている。退院後など、状況に変化のあった時に現状に即して新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受診や定期的通院時の付添支援や、利用者の要望によって外出訪問など柔軟に支援をしている。	○	利用者への支援は柔軟にしている。今後、さらに利用者個々に応じて事業所の機能を幅広く活用しての支援が望まれる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、利用者や家族の意向を聞き、かかりつけ医に受診できるよう支援している。本人の状況や健康上の変化は医師との連携だけでなく、家族とも連絡を取っている。かかりつけ医の定期検診や、受診時は待ち合わせ家族と同行し、利用者の状況の記録をもとに医師に伝えている。また、医師の所見を家族と共に聞くようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に緊急時の対応、入院の必要な場合の申し合わせを文書にして取り交わしている。	○	家族のなかには看取りを希望される方もある。状況をよく知っている嘱託医が熱心で常に相談に応じている。対応について助言がありそれに沿っている。今後、重度化が進むことが予想され、対応についての事業所として共有された方針が検討されることを望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	緊急事態に必要な書類などは卓上、棚に、個人記録に関する書類は特別に管理されている。利用者への呼称には職員のその場その場での思いがあり、グループにより姿勢が異なっていた。	○	利用者の尊厳と呼称の在り方が問われていることに職員は意識をもっている。利用者との距離のあり様もあり、今後も尊厳の点から利用者への対応についての検討が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「待つ介護」の標榜の通り利用者の生活ペースを主体に支援している。訪問当日も食事の準備に時間がかかり大分昼食時間がずれていた。職員は特別なことではないように利用者を支援している様子であった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	座席の指定はないが自然に席についていた。盛り付け、配膳を言葉を交わしたら準備していた。コップ、箸は各自のもので個性豊かなものを使っている。お茶はポットが卓上におかれ、主食のおかわりができるようにあった。共にする準備、後片付けがあり、献立もその時の相談の上決められている。上手にキャベツの千切りをされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後が大まかな入浴時間であるが、利用者の意向を聞き入浴順番や仲間同士で入る、その日の状態に合わせて入るなど希望に沿っている。入浴を好まない方に対して足浴や蒸しタオルで体を拭き、気持ちがいいと実感した上で入浴してもらっている。本人の状態に合わせ全身清拭の方が安全で安楽な場合もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、洗濯干し、取り入れ、花の水やり、年賀状宛名書きなどの日常生活の技術は利用者の力、意欲を発揮してもらっている。当日もそうめん流しに使用する、竹の節切りの作業途中である材料がおかれていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	二日に一度スーパーへの買い物にできるだけ多くの利用者に声をかけていく。小遣いの自己管理者もおり、買い物の支払いをお願いしている。気が向けば一人で近所に出かけていく人もある。周囲で出かけられる場所を探し出せばもっと日常的に出かけられるだろう。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に入出入りできることは当然であると、全職員が認識している。エレベーター、階段を自由に利用して出かけて行き、迎えに行くこともある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	土地の性質からして水災害には弱いとの助言があった。土のう作りの備えはある。消防署の指導で年一度の避難訓練を行い、避難場所、誘導方法などの助言ももらった。	○	自主避難を実施している。非常時には実際の訓練をしておくことで職員の不安が解消される。自主訓練と共に災害時に備えておくべきものについて検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別に水分摂取の必要な利用者には、摂取の状況が判断つくように準備している。職員が食事や水分の摂取量をたまかに確認し、記録に努めている。また、摂取困難な利用者には調理方法を工夫している。	○	利用者主体の支援として三食共に献立から利用者の希望や相談で準備している。法人の栄養士の機能を活かして、栄養バランスの状況を確認、助言を得ることにより、より一層利用者の健康面への支援につながるだろう。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地に咲いている季節の花を玄関に生けられている。窓、ドアが開放され、室温、換気に配慮している。畳の間、ソファ、ダイニングと好みの場所で自由にくつろげるようになっている。	○	利用者行事時の写真、行事予定のお知らせは目立たない場所におかれている。利用者の特技の発揮もあわせて利用者の五感を刺激し、会話の弾むきっかけとなる工夫は考えられないだろうか。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個人の好みの物と持参した家具、調度品でしつらえられている。利用者個々の環境で落ち着いて過ごせている。		